

## 第 95 回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時: 2021 年 12 月 17 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分
2. 場所: 公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第1第2会議室
3. 出席者: 菅原委員長、井岡委員、大石委員、大沼委員、高岡委員、村上委員、山田委員  
以上7名  
その他 経済産業省・環境省担当官、公益財団法人自動車リサイクル促進センター役職員が出席
4. 議題: ①2021 年度第2四半期の概況【報告事項】  
②2021 年度第2四半期の決算【報告事項】  
③2021 年度第2四半期の運用実績【報告事項】  
④資金管理業務規程の変更【諮問事項】  
⑤国内外における自動車リサイクル・資源循環に関する調査結果【報告事項】  
⑥不適正保管事案への対応【報告事項】  
⑦新コンタクトセンターの稼働状況【報告事項】  
⑧ユーザー理解活動の取組状況【報告事項】

### 5. 議事録

#### (1) 議題①について

2021 年度第2四半期の概況について、事務局から資料「第 95 回 資金管理業務諮問委員会」の3～6ページにて報告した。

#### <主な意見>

なし

#### (2) 議題②について

2021年度第2四半期の決算について、事務局から同資料の7～14ページにて報告した。

#### <主な意見>

なし

#### (3) 議題③について

2021 年度第2四半期の運用実績について、事務局から同資料の 15～20 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(4)議題④について

資金管理業務規程の変更について、事務局から同資料の 21 ページにて説明し、原案のとおり承認された。

<主な意見>

【委員A】

2021年9月開催の第94回資金管理業務諮問委員会にて説明された内容であるため、特に問題はないと思う。

(5)議題⑤について

国内外における自動車リサイクル・資源循環に関する調査結果について、事務局から同資料の 22 ページにて報告した。また、詳細について、事業開発推進室が別冊1（非公開資料）を用いて報告した。

<主な意見>

【委員B】

情報プラットフォームの整備や調査報告書の作成については、民間のシンクタンクが行うようなものであると思うが、予算を使いJARCで実施することの意義について教えてほしい。

【事業開発推進室】

情報プラットフォームの整備については、情報基盤の整備と人的ネットワークの形成をテーマとしている。人的ネットワークの形成については、これまで民間企業が業界団体や民間企業の交流を促すようなサミットを開催するなどの動きがあった。しかしながら、中長期的に継続されるには至っていない状況にある。このように、民間企業と競合しない領域において公益的な立場で貢献することにJARCとしての使命を見出している。また、自動車業界は100年に一度とされる大変革期を迎えており、JARCの指定法人業務への影響も極めて大きいと考えられる。そのため、指定法人業務に付帯するものとして調査を実施するものの、資源循環に関わる方々にとっても有益な情報を集め、さらには、民間企業が利益を出しづらい範囲に注力して報告書を作成するなどしていきたい。

【委員C】

委員Bに対する回答にあったJARCが本件に取り組む意義については、説明のたびに冒頭に入れたほうが良いと思う。

【委員C】

国際的な動向について、現在進行形の情報収集をどうするかは大きな課題である。情報の速報性と確実性を同時に担保することはとても難しいことだが、最新の状況をどのようにしてうまく刈り取って整理するのか検討したほうが良い。また、海外向けの情報発信をすることが情報の収集にも不可欠なので両方とも検討する必要がある。

【事業開発推進室】

刻々と変わる情勢において、どのように情報収集を進めるかは課題である。一方で、現在、経済産業省のタイ政府への協力事業に参画していることもあり、タイの政府関係者の方々とは関係を構築しつつある。そのような機会を活用して、適宜情報を収集していきたい。

(6)議題⑥について

不適正保管事案への対応について、事務局から同資料の 23 ページにて報告した。また、詳細について、本事業の対象となった自治体が別冊2(非公開資料)を用いて報告した。

<主な意見>

【委員D】※非公開資料に関して

不法投棄監視活動に関して、現在の監視員の人数と選任方法はどのようになっているのか教えてほしい。また、タブレットを活用したシステムの運用が変更になったとのことだが、これによって自治体側の費用負担はどのように変化したのかを教えてほしい。

【自治体担当者】

不法投棄監視活動を1998年4月から行っている。監視員の人数は従来から変わりなく、また、選任方法も従来と同じく欠員補充の方法である。タブレットを活用したシステムへの変更により毎年ランニングコストが発生しているが、当方の予算で負担をしている。

【委員D】

このシステムは他の自治体も利用可能であると思うので、他の自治体と情報共有してほしい。

【委員E】※非公開資料に関して

不適正保管現場で見つかった高濃度PCB廃棄物は、すでにJESCO(中間貯蔵・環境安全事業株式会社)に登録され処理されたのか。また、現場から見つかった濃度不明PCB廃棄物については、すでにPCBの濃度が判明し保管や処分がされたのか。

【自治体担当者】

高濃度PCB廃棄物については、JESCOへの登録だけでなく搬出及び処理も進んでいる。濃度不明PCB廃棄物については、一般の人が触れないように現場で保管がされており、濃度の分析を進めている。分析の結果、高濃度であった場合は速やかに処分手続きを図り、PCBが含まれていなかったものについては原因者に撤去させる予定である。

【委員F】※非公開資料に関して

環境モニタリングをしているとのことだが、不適正保管現場の土壌汚染について調査はしているのか。また、不適正保管現場を調査する際にドローンを使うという事例を聞いたことがあるが、そのようなことはしているのか。

【自治体担当者】

土壌の調査については、原因者が調査すべき事項であるため調査を行う予定はない。なお、基礎調査において、土壌汚染につながる油漏れなどの有無について調査をしており、継続的に油で汚染されているような場所はないと把握している。また、本自治体においては、数年前からドローンを導入しており、今回のモデル事業だけでなく、そのほかの事案についてもドローンを使った調査を行っている。ドローンを使うことにより、不法投棄の未然防止としても役立っている。

(7)議題⑦について

新コンタクトセンターの稼働状況について、事務局から資料「第95回 資金管理業務諮問委員会」の24ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(8)議題⑧について

ユーザー理解活動の取組状況について、広報・理解活動推進部から別冊3「(報告)ユーザー理解活動の取組状況」にて報告した。

<主な意見>

【委員A】

コロナ禍の制約の中で積極的に活動し、着実に実績が積み上がっていると感じた。

【委員G】

子どもたちにどのような行動変容を期待して自動車リサイクルに関する環境教育を行っているのか教えてほしい。また、自動車のリサイクルを実現していくなかで、新しい車を購入する際にリサイクルされた部品が何にどれだけ使われているのかなど、そのような情報はユーザーに提供されているのか教えてほしい。

【広報部】

前者の質問について回答する。現在、多くの小学校では、5年生の社会科において日本の基幹産業である自動車産業が取り上げられ、このなかで環境にやさしい自動車づくりや資源を大切に使うための自動車リサイクルが学習されている。そこでは「廃棄するときのことを考えてものを造る」や「廃棄するときのことを考えてものを買う」ということも学習されており、このような行動変容が期待されるところである。JARCでは、小学校の学習ニーズに沿った自動車リサイクルに関する基礎情報を提供している。

**【理事A】**

後者の質問について回答する。自動車へのリサイクル材の使用状況については、表示をしているメーカーもあれば、表示をしていないメーカーもある。表示しているメーカーについては、ホームページや商品カタログに記載している事例がある。また、リサイクル可能な原料を使っている点を表示している事例もある。今後はさらに情報開示が重要になってくるので、メーカーでは様々な検討を行っているようである。

**【委員D】**

別冊3のP.11の資料は教科書の制作会社へ送付しているとのことだが、副読本などに本資料が使われているのか教えてほしい。また、最近、「えんとつ町のプペル」が歌舞伎として上演されていることで話題になっている。プペルの認知度が向上することで、プペルを通じて自動車リサイクルに興味を持ってもらう機会があればよいと思うのだが、以前JARCが配信をした「ゴミ人間プペルとクルマくん」の映像は、まだ自動車学校で配信しているのか。

**【広報部】**

前者の質問については、一部の地域の副読本には使われているとの情報を得ている。後者の質問については、自動車教習所で配信している映像は適宜差し替えて配信をしている。現在、プペルの情報がメディアで取り上げられていることもあるため、「ゴミ人間プペルとクルマくん」の映像をメインとして配信をしている。

以上